



TITLE:

## 露西亞の産業組合運動

AUTHOR(S):

八木, 芳之助

---

CITATION:

八木, 芳之助. 露西亞の産業組合運動. 經濟論叢 1927, 24(1): 110-143

ISSUE DATE:

1927-01-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128494>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號一第

卷四十二第

行發日一月一年六十正大

租税の目的と實體 . . . . . 教授 法學博士 神戸 正雄

びマルクスの社會的意識形態に就いて . . . . . 教授 法學博士 河上 肇

土地の非資本的性質に就て . . . . . 教授 法學博士 河田 嗣郎

徳川時代の農民逃散 . . . . . 教授 經濟學士 黒正 巖

經濟學の根柢をなす公益的精神に就て . . . . . 助教授 法學士 石川 興二

露西亞の産業組合運動 . . . . . 助教授 經濟學士 八木芳之助

フイジオの勞賃論と「純收入」 . . . . . 講師 經濟學士 森 耕二郎

日支通商航海條約改正について . . . . . 教授 法學博士 末廣 重雄

國庫預金と兌換券發行高との關係 . . . . . 助教授 法學士 沙見 三郎

武士階級の窮乏 . . . . . 教授 經濟學博士 本庄榮治郎

家族統計概論 . . . . . 教授 法學博士 財部 靜治

海運勞務の提供に要する原費 . . . . . 教授 經濟學博士 小島昌太郎

琉球と慶長役 . . . . . 教授 法學博士 山本美越乃

## 露西亞の産業組合運動

八 木 芳 之 助

### 第一 緒 言

露西亞に於てボルシェヴィキが舊時代の壓制を打破つて政治的及び社會的革命を成就してから早くも滿八ヶ年が経過してゐる。その間、此の社會主義共和國の研究は理論的方面から實際的方面から非常に夥しく爲され、就中ボルシェヴィズムの理論に關しては幾多の卓越せる勞作が發表せられてゐる。而して今日最も興味ある問題は社會主義國家を標榜する所の勞農露西亞が將來果して如何なる社會的經濟的政策を以て彼等の理論を實現せんとするかとの點に存してゐる。されば一九二一年勞農政府が其の經濟的危機に遭遇し、資本主義への退却を揚言して新經濟政策を實施するに及んで露西亞の經濟的施設に對する實際的討究が愈々盛んに行はるゝに至つたのは、蓋し當然のこと、言はなければならぬ。余も亦其の驥尾に附して、現在露西亞の經濟的構成中に於て、産業組合が如何なる機能を有するか、又社會主義革命期に於て該組合が如何なる意義を有するかを呈示すると共に、併せて此等の期間を通じて該組合が如何なる變化を被るに至つたかを瞭にしやうと思ふのである。

抑も露西亞に於ける各種の産業組合も亦他國のそれと同様に、本來資本主義經濟組織に於ける一制度として發生したるものであつて、該組合運動は最初は不鮮明なる運動として出發し、政府に依て妨礙せられ、中産階級によつて勞働者を搾取するために利用せられ、全く保守的なブルジョアの一計畫であつたが、後には革命家の手中に於ける利器となり、大戰中に於ては重要な經濟的要素たることを立證した。該組合は一時ケレンスキー政府に依て支持せられソビエツト制度の一要機關となりたるが、次でボルシェヴィキに依て國有化せられ自由主義的運動としては全く消滅に歸したるも、新經濟政策の採用以來再び其の獨立性を認められ増大せる勢力を以て出現し、世界の一大運動となるに至つた。露西亞の産業組合は六十有餘年の歴史を有するに過ぎざるも、其の間驚くべき變化を遂げ、其の發展は露西亞の千變萬化せる歴史と緊密なる關係を有するものなるが故に、該組合運動の展開は之が背景となれる露西亞の社會的經濟的轉變の真相を捕捉するに於て、初めてよく理解せらるゝものと云ふべきである。<sup>1)</sup>

## 第二 資本主義經濟組織の下に於ける露西亞の 産業組合の本質

露西亞の産業組合の本質が、資本主義經濟より社會主義經濟に入るに及んで、如何に變化し又變化せざるを得なかつたかを理解するためには、先づ該組合の本來の本質が如何なるものなるかを豫め考究するの要がある。露西亞の産業組合主義者が産業組合に下せる諸定義よりして該組合

1) Blanc, Co-operative Movement in Russia. New York 1924. p. 1.

の本質を瞭にするは、該組合がボルシエヴィキの社會主義革命の下に於て被れる本質上の變化を捕捉するに便宜たるであらう。

ハルコフ大學のアンチフエロフ教授は、産業組合は組合員の一般經濟的目的を達するために、組合員の平等權利及び自治の原則上に樹てられたる、人々の自由なる聯合であつて、各組合員は之に對して直接的に關與し、物的責任を負ふものである。而して其の經濟的活動に據て獲得せられたる利潤は報酬として資本に歸屬するものではないと解してゐる。<sup>2)</sup>次に後にケレンスキー内閣の食糧大臣となり全露産業組合會議の議長となつたプロコピツチは嘗て産業組合の本質を定義して、該組合は(一)組合員各自の利益を追求し、自由に加入及び脱退をなし得る所の人員に制限なき人々の聯合であつて、(二)全組合員の完全なる平等權能及び自治の民主的原則上に建てられ、(三)組合員の共同計算に於て、生産、交易及び信用に屬する所の經濟的活動を遂行し、(四)組合員の勞働の生産及び收益力を高め、生産及び經濟の遂行を容易且つ低安ならしめんと努むるものにして、(五)該組合の最新の形態に於ては、組合員をして中間商人及び高利貸等による搾取を免れしめ、大資本家生産を不用に歸せしめんとするものであつて、(六)組合の純收益は其の共同事業に對する組合員の出資に應じて組合員間に分配せられ、(七)組合員は其の個性を奪はれず、寧ろ反對に各自の個性及び能力を自由に發揮する可能性を與へらるゝものであると謂てゐる。<sup>3)</sup>更にツガン・バラノウスキイは産業組合は自由意思的に結合せる人々の經濟的企業であつて、投下資本に對する最大の利潤の追求を目的とするよりも、寧ろ經濟の共同行使によつて組合員の勞働收益の向上若し

2) Ancyferov, Das Genossenschaftswesen in der Landwirtschaft Deutschlands und Frankreichs. 1909. S. 498.

3) Prokopovič, Die Genossenschaftsbewegung in Russland, ihre Theorie und Praxis. 1913. S. 1-32.

くば消費目的に對する支出の減少を圖るものであると定義し、最後にトトミアンツは産業組合は利潤の獲得よりは寧ろ組合員の經濟的及び道德的狀態の改善を目的とする所の組合員及び資本の可變組織を有する自由なる聯合たることを力説してゐる。

右に引用せる諸定義は何れも資本主義經濟組織の下に於ける産業組合の本質を瞭にしたるものであるが、此等の諸定義を一々茲に批評するは本論文の目的にあらざるを以て之を措くも、此等の諸定義よりして産業組合なるもの、特質を窺ひ得るであらう。即ち先づ第一に産業組合は人々の自由なる結合であると云ひ得るのである。抑も現代を特徴づくる個人主義社會の最も典型的なる思想は各個人の絶對的自由であつて、有らゆる外界の支配より免れ、有らゆる固定と硬化とより脱却せんと欲することである。斯る思想によつて支配せらるゝ結果、産業組合内部に於ては組合員の完全なる自由を認むるものである。故に組合は獨立したる個人の集合であり、云はゞ原子の集積に例へらるべきものである。而して一方其の内部に於ては各原子は獨立したるものであり、單に自己のみに基礎を有し、自ら完成したる存在を繼續し乍ら、他方各原子の結合によつて各自の弱所を補ひ、以て各人の福祉を追及せんとするものである。さればプロコピッチの云ふ如く、組合員は人格的に結合すると同時に、組合内部に於ては各自の個性及び能力を自由に發揮し得るものである。斯くの如く現代の産業組合は自由なる結合たる結果、組合員の加入及び脱退の自由を認むるは當然のことである。

第二に産業組合は民主的原則上に立てられたる人々の結合であつて、組合員各自の平等權能を

- 4) Tugan-Baranowsky, Die sozialen Grundlagen des Genossenschaftswesens. 1919. S. 61.  
5) Totomianz, Grundlagen des Genossenschaftswesens. 1923. S. 22.

認むるものであると云ひ得る。此の事たるや組合員總會に於て一組合員が一票の投票權を有し、組合員の組合に對する出資額の如何を問はず、又其の拂込額、加入年月の長短を問はず一人一票を投じ得ることによつて明白たるであらう。<sup>6)</sup>

第三に産業組合は資本の團體と云ふよりも寧ろ人の團體であつて、利潤の獲得よりも寧ろ組合員の經濟及び生活の改善を圖るものであると云ひ得るのである。かく云へばとて決して産業組合に於て資本が何等の役割を演ぜざる事を意味するものではない。たゞ資本の出資及び利用に對して出資人格が鋭く問題視せらるゝためであつて、特定地域の特定人格にあらざれば、一産業組合の資本の出資者たるを得ないからである。換言すれば資本を單に出資することではなく、特定の人が資本を支出するのであつて、株式會社に於ける資本の非人格性及び浮遊性は茲に於ては毫末も考へられないのである。更に産業組合は今日の經濟社會に於て實現されてゐる所の利潤の形態を極力排斥せんと努むるものである。今日の資本家企業に於ては利潤が其の經濟行爲の唯一最高の目標たるものである。然れども産業組合に於ては利潤は組合員の需要を充たすために存するに過ぎないのである。今日の資本家企業に於ては出資額に對して最大可能の利潤を配當するに努むるも、併し産業組合に於ては普通の割引歩合以上の利潤の配當をなすは決して組合本來の目的ではない。而して此の事たるや、全露西亞の産業組合に對する例外なき特徴である。<sup>7)</sup>又産業組合發達の初期に於ては貧小微弱なる資本主義領域外の生産者を扶け、其の資本主義への順應を圖りつゝあるに過ぎざるも、併しプロコピッチの云ふ如く其の高度に發達したる形態に於ては資本家生産

- 6) 一九一七年三月二十八日發布の露西亞の産業組合法第三十五條は「組合員の此の權利を明に認めてゐる。」  
7) 同法第十二條は組合員の出資に對して年八分以上の利益配當をなし得ざる旨を規定してゐる。

を廢止せんとするものであつて、此の事は消費組合に就て明に認めるゝ所である。

最後に産業組合の本質を一層瞭にするために、之が勞働組合及び社會主義に對する關係を簡單に述べるであらう。抑も勞働組合は或る階級及び或る職業に屬する人々の制限せられたる機關に過ぎないのであるが、産業組合に於ては生産組合を除く外は總ての社會階級の人々を抱擁するものである。更に勞働組合は資本家と闘争するために常に同盟罷業を行ふが、産業組合は斷じて之を行はないのである。それは産業組合の本分でないとしてゐる。蓋し同盟罷業なるものは資本家を脅威するよりも、寧ろ多數の消費者を脅威するからである。次に産業組合と社會主義との關係を窺ふに、マルキストは政權の獲得を平和手段に依りて行ふか又は革命手段に依りて行ふかを論せず、常に國家を以て社會改良の最良要具であると看做すのである。併し産業組合論者は國家を社會改革の最良要具とは認めてゐない。産業組合に於ては社會改革は個人から出發すべきであつて個人が社會進歩の原動力であるとされてゐる。されば産業組合は各人の個性を重要視し、歴史上に於ける各個人の創造力を認識し、歴史上の英雄と其の偉業とを讚美し、社會的各種形態の建設事業に於ける人格の影響を重大視する。斯くの如く産業組合にありては、道德的及び平和的要素を人格の根本としてゐるから、産業組合が階級闘争を社會進化の原動力と認めざるは瞭である。産業組合に於ては勞働者も農民も又ブルジョアも同一に待遇せられるのであつて、消費組合にありても信用組合にありても、組合員たらんとするものは何人たるを論せず直ちに加入し得る所である。斯く組合内に於ては全く階級闘争が存せず、勞働者農民及びブルジョアの有効な、其



同動作が實現されるのである。此等の諸階級は他の範圍内に於ては相互に鬭争してゐるが、産業組合に於ては彼等の反目鬭意は自ら消滅するものとされてゐる。斯くの如く從來の産業組合論者は社會改造を行ふには、搾取階級の撤廢を目的とする所の勞働者階級の政治的鬭争が根本的に重要であるとは考へてゐなかつたのである。

### 第三 一九一七年のボルシエヴィキ革命に至る

#### 迄の露西亞の産業組合發展の概況

露西亞の産業組合の本質は上述せる所なるが、斯る意義の組合が一九一七年のボルシエヴィキ革命に至る迄に如何に發展せるかを簡單に述ぶるであらう。凡そ露西亞の産業組合は本來資本主義經濟組織に於ける一制度として發生したものであるから、其の起原は少く共一八六一年の農奴解放以前に遡ることは出来ない。露西亞の最初の消費組合は一八六五年にウラルの工場村たるキノフに於て設立せられ、信用組合は同年にドロバトフ村に於てシユルツエ・デーリツチ式の原則に基いて設立せられ、農業加工組合も一八六六年に設立せられた。併し熱心なる少數の智識階級の活動に依て惹起されたる斯る當初の産業組合の設立は、毫も組合運動を喚起するに至らなかつたのである。蓋し之が發生に必要な國民經濟的及び一般文化的根底を缺けるが爲めであつて、當時村落は全く自然經濟の状態にあり、各人の物的要求は各自の經濟内に於て充足せられ、精神的要求も極めて原始的のものであるか又は全然缺如してゐたからである。都市には未だ近代的無

産者が存せず、又都市並に村落は世界市場の影響を被ることは殆んどなかつた。併し農民解放以來發生せる自然經濟の弛廢は、前世紀の九十年代に至つて一般に認めらるゝ所の不可避的事實となつた。漸次大工業は顯著なる進歩を遂げ、都市と村落との分離は愈々明確となり、交易經濟は自然經濟を解消せしめ幾千の經濟は新經濟關係の渦中に投ずるに至つた。一方に於ては他の經濟の生産物(工場生産物)を購買し、他方に於ては益々増加する所の國家並に地方自治體の租税及び公課の徴收に應ずるがために自家の生産物を賣却する必要は、各自の經營の收益力を高め、節約によつて其の出費を減少せしむることを餘儀なくせしめた。斯る狀態から農民を救済する手段は、十數年前から知識階級の人々によつて唱導せられたる組合に於て見出されたのであつた。而して産業組合に依てのみ、交易經濟に参加せる農民は其の生産物の賣却並に必要な商品の購買を有利に行ひ得るものである。

併し一九〇五年の第一革命に至る迄には産業組合運動は未だ有勢なるものとはならず、其の經濟的前提は總ての障害を克服するには充分強大ではなかつた。殊に當時の官僚的政府は産業組合を警戒し、之が純然たるブルジョア的計畫のものであつても、常に之を監視して多數の立法手段に據て之が發展を阻害した。然るに一九〇五年の革命は露西亞の産業組合運動に一轉機を劃さしむることゝなつた。政府が廣大なる民衆の自治的活動を抑制するため全國に課したる壓迫は、全く廢止せらるゝに至り、帝國議會も産業組合に關しては保護獎勵者となり、他の社會運動に對しては壓迫的態度を採れる國家も、就中農業信用組合に對しては資金を賦與する事によつて之が發

達を援助することゝなつた。而して政治革命に失敗せる知識階級は、國民の自治活動の訓育所たる産業組合の發達に全力を捧ぐるに至り、又地方自治體 (Semstvos) は其の不屈不撓の努力に依て、國民教育及び經濟的啓蒙活動に於て成果を收め、産業組合に對する精神的前提を喚起せんと努めた。<sup>10)</sup> 斯くの如く當時の知識階級は此の運動を露西亞の産業生活の間に誘導し、以て農民及び勞働者の生活狀態を改善すべしと高唱し、其の爲に貢獻する所も少なくはなかつたが、事實は彼等の期待に反し勞働者に直接充分なる反應を及ぼし得なかつたのである。蓋し當時既に勞働者階級は革命主義によつて影響せられ、産業組合主義に基く溫和なる社會改良の如きは概ね顧みられなかつたからである。<sup>11)</sup>

然るに世界戰爭の勃發は産業組合の發達を異常なる力を以て促すに至つた。大戰によつて惹起されたる露西亞の一般的無秩序の間にあつて、産業組合は其の效績によつて人々の信頼を博した。而して政府も時勢の危急に促されて、産業組合に幾多の讓歩を與へ、遂に産業組合を援助する法律を發布せしに留らず、又直接財政上の補助を與ふるに至つた。該組合は大戰によつて惹起されたる商業的好機會を利用し、又民衆及び新聞の好意によつて、産業組合の新計畫は未曾有の範圍に亘り、消費組合信用組合及び農業組合を包含する所の一大運動が出現するに至つた。<sup>12)</sup>

(1) 消費組合 大戰は消費組合及び其の組合員の増加に非常なる影響を及ぼした。此の主要なる原因は商ハの射利的態度に基くものであつて、物價の不斷の騰貴を促したる食料品及び其の他商品の大いなる缺乏は、消費組合と商人との全く異なる販賣政策を促した。商人は價格を引上ぐる

10) Fuckner, Die russische Genossenschaftsbewegung (1865-1921). 1922. S. 12-15.

Hahn, Die neueste Entwicklung des Genossenschaftswesens in Russland. 1920. S. 3-4.

11) Blanc, Co-operative Movement in Russia. p. 52.

12) ibid. p. 92.

有らゆる機會を利用せんと試みたるに反し、消費組合は購買せる商品の價格を引上ぐる事なくして之を組合員に交付した。従つて消費組合に於ては常に理論上に留らず、實際に於ても其の販賣價格は商人のそれよりも低廉であつた。或る種の商品が消費組合に於て缺乏する際には、其の價格は直ちに商人によつて引上げらるゝ有様であつた。<sup>13)</sup>されば人々は争つて消費組合に加入し、組合員は戰前には百五十萬人であつたが、一九一七年一月には六百五十萬人となり、翌年一月には一千萬人にも上つた。<sup>14)</sup>併し消費組合の異常なる發展を促したる他の原因として、全國的な消費組合聯合運動を擧げなければならぬ。從來政府は該組合の聯合運動に對しては反對的態度を採り、消費組合の活動は各一都市内に限るべきものとなし、各組合間の聯合は現在に於ても又將來に於ても之を許さざる方針を採れるが、斯る方策は其の後漸次緩和せられ、一八九六年ニデニ・ノブゴロッドに於て第一回の消費組合會議が開かれ、一八九八年にはモスコウに消費組合聯合會が設立せらるゝに至つた。<sup>15)</sup>其の後此の聯合會の機能は漸次擴大せられたるが、大戰中に於て異常に増加せる全國の多數の消費組合に對しては、不充分となるに至つた。されば露西亞の各地方に於て新なる消費組合聯合會が設けられ、一九一六年乃至一七年にはベテログラード、キエフ、オデッサ、ベルムに於て夫々聯合會が設けられ、チャルコフに於ては南露消費組合聯合會(Pojur)が設けられ、シベリアに於てはシベリア産業組合聯合會(Sakapsbye)が設立せられた。而して此等の新聯合會は其の管理及び資本に關しては完全なる獨立活動を確保せるが、モスコウ聯合會の一分肢となり、商業取引に就て後者と密接なる關係を結んだ。<sup>16)</sup>而して一九一七年七月にモスコウ聯合

13) Fuckner, a. a. O. S. 15.  
 14) Fuckner, a. a. O. S. 26.  
 15) Fuckner, a. a. O. S. 22.  
 16) Fuckner, a. a. O. S. 32.

會は全露消費組合中央聯合會 (Zentrossus) なり、其の最も繁榮せる時代に於ては四萬六千の消費組合と一千萬の組合員とを包擁したのである。

(ロ) 信用組合 露西亞の信用組合には二様の形式が認められる。一はシュルツェ・デーリツチ式の庶民銀行に類するものであり、他はライプアイゼンの原則に基く信用組合である。露西亞の信用組合發生の當時に於ては、シュルツェ信用組合の思想が知識階級の間に擴まり、同組合が各地に設立せられたるが、當時の創設者は地主又は知識階級の人々であつて、一般民衆就中農民は之に對して何等の理解なく、ために信用組合は未だ充分なる發達を遂ぐるに至らなかつた。一八九一年の大凶作と之に引續ける大饑饉とは、一般の注意をして農業問題に向はしめ、政府も農民を救済する目的を以て一八九五年七月に信用組合法を發布してライプアイゼン式の信用組合の設立を獎勵した。<sup>17)</sup>更に信用組合はストリッピンの農業改革に據て大いに發展することゝなつた。即ち共同耕作の廢止、小土地所有者の非常なる増加(一九一三年には全農民の半を占む)及び之と關聯せる農業の集約化は信用組合の發展を促した。而して農業生産に機械、家畜及び優良なる種子を必要とする中農は、信用組合に加入せざるを得ざるに至つた。一九〇五年には一四一三の信用組合が存せしに過ぎざるに、一九一五年一月には一四五四八に増加し、之に伴ふて組合運動の性質が根本的に變化することゝなつた。即ち貴族的運動から民主的のものとなり、好意的なる貴族階級は此の運動から退き眞の庶民的運動となつたのである。<sup>18)</sup>農民の側に於ける信用組合に對する信頼の大きいことは、彼等の組合預金の不斷の増加に依て之を知り得るのであつて、彼等は

17) Fuckner, a. a. O. S. 39. 40.

18) Fuckner, a. a. O. S. 42.

戰中に於て其の手許現金は之を自家に貯藏するか又は信用組合に預金した。大戰中に於て組合は本來の信用授與の任務以外に、軍隊及び人民に穀物其他の食料品を供給する任務を引受け、一九一六年には軍糧品の一七%を供給した。<sup>19)</sup>信用組合に在ても各地方に其の聯合會が設けられ、就中顯著なるものは南東歐西亞信用組合聯合會(ИВСОС)であつて、一九一八年の初めには八五四の信用組合を包擁した。又信用組合の中央金庫としては一九一二年に百萬留の資本金を以てモスコウ國民銀行(Moscow Narodny Bank)が設立せられたるが、其の後漸次發展して一九一七年末には一千萬留の資本金を有するに至つた。<sup>20)</sup>

(ハ)農業組合 此の組合の發展は其の當初に於ては極めて遅々たるものであつた。普通農業組合中には農事組合(Общества)が加へらるゝも、之は寧ろ農民の文化的啓蒙を任務とするものである。本來の産業組合としての農業組合(Товарищества)は今世紀に入りて初めて發展したるものである。前世紀に於ては之はミール及びアルテル(Artel)と共に殆んど見るべき成果を收めなかつた。即ち農業組合は一八九五年迄には一七五存せしに過ぎざるも、一九〇七年のストリツピン改革迄に一七一八に増加し、大戰の勃發當時には八〇〇〇に達した。シベリアに於ては農業組合は顯著なる發展を遂げ、酪農組合は一八六〇年に初めて設立せられたるが、植民者の増加に伴ひ北部露西亞にも擴張せらるゝに至つた。該組合の聯合會(Маслозент)は一九一〇年に伯林に事務所を設け、革命勃發當時に於ては三五〇〇の酪農組合を包含し、牛酪輸出額の半を取扱ひ、其の内三九・一%は獨逸へ、又同様の額を英吉利へ輸出した。<sup>21)</sup>更に亞麻栽培組合を發展し、一九一五年に

19) Fuckner, a. a. O. S. 45.

Hahn, a. a. O. S. 6.

20) Fuckner, a. a. O. S. 63.

21) Fuckner, a. a. O. S. 58.

は其の全露聯合會 (Jnozeht) が設けられ、全國の亞麻栽培の六〇%を包含し、世界市場に於て重大なる役割を演ずることゝなつた。<sup>22)</sup> 同時に馬鈴薯栽培組合も全國的な聯合會 (Sojis-Kartofel) を設立した。一九一八年にはモスコウ國民銀行に依て全露農産物購買組合聯合會 (Selskossjus) が設立せられたるも、間もなくボルシェヴィキによる自由産業組合の破壊が行はれたるが故に、充分なる發展を見ずに終つた。

ケレンスキーの假政府の下に於ても又ボルシェヴィキ革命の當初に於ても、共產黨は純然たる資本家企業との闘争に従事せるが故に、産業組合は一九一八年の一月に至る迄引續いて發展した。今一八六六年から一九一八年一月に至る迄の産業組合の發達を示せば次の如くである。<sup>23)</sup>

	一八六六年	一九〇一年	一九〇五年	一九一三年	一九一七年	一九一八年
消費組合	二	六〇〇	一〇〇四	一〇〇八〇	三〇〇〇〇	四五九九七
信用組合	一	八九七	一六二九	一二七五一	一八七六八	二六五〇〇
農業組合	一	二六八	一二七五	八〇〇〇	一二五〇〇	一四五二〇

更に進んで斯る産業組合が戦時共產主義時代に於て如何に變化せるかを窺ふであらう。

#### 第四 戦時共產主義時代に於ける産業組合

從來の社會主義者が資本主義時代に於ける産業組合の重要性を批判するに際しては、産業組合なるものが社會主義を實現する闘争手段として如何なる程度に於て役立つやの問題に、其の注意力を集中せるものであつた。社會主義の右翼、即ち所謂修正派は産業組合運動を重要視するもの

22) Hahn, a. a. O. S. 14.

23) Kaysenbrecht, Das russische Genossenschaftswesen. (Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik. 1936, 55 Bd. 1 Heft.) S. 197.

である。蓋し彼等は産業組合なるものは漸次資本主義企業を各種の經濟方面より驅逐して之に代り、從つて社會化の行程は社會革命なくして到達せられ得るものと信ずるからである。反之左翼即ち革命的社會主義者は一般に無產者の獨裁手段に依らざる社會化を信じ得ないのである。彼等の看る所によれば産業組合運動なるものは、社會主義を實現するための多數の第二次的手段の一に過ぎるものであつて、然かも勞働組合及び革命的勞働者の政治機關が該運動に参加する場合に於てのみ、重要性を有するものである。彼等は産業組合が有用なる所以は該組合が資本主義企業に代ることによつて勞働者の物質的狀態を改善するがためではなく、寧ろ該組合が勞働者をば共同利益の下に於ける共同生産經營に馴れしむるに適するものであると信ずるがためである。<sup>24)</sup>

然れども社會革命の時期に於ける産業組合の任務は果して如何なるものであるか。無產者が資本主義の權力を奪ひ、政權を自己の掌中に收め、新なる社會主義經濟組織の建設を開始したる後に於ては産業組合に如何なる役割が果せらるべきであるか。然るに此の問題たるや、他の幾多の問題と同様に、從來の社會主義の理論家によつて充分に解決せられてはゐなかつたのである。所謂科學的社會主義なるものも、來たるべき社會制度の一般の根底を概説するを以て満足せるものであつた。從つて詳細なる計畫は新制度建設の行程中に於て作成せられなければならないか。勿論彼等理論家は新制度の建設は長年月の行程を要するが故に、如何なる場合に於ても多少正當なる方策を見出すに充分なる餘裕を有するものと信じてゐたのである。

ボルシェヴィキが政權を獲得するや否や、數百年來存せし社會、國家及び經濟組織の破壊を開

24) 從來の社會主義者の産業組合に對する態度に關する詳細なる點に就ては W. Kulenmann, Die Genossenschaftsbewegung, Berlin 1925 Bd. II. S. 198 以下參照。



始した。併し此の最初の攻撃に於ては、産業組合は破壊を免れたのであつた。當時ボルシェヴィキは資本主義の巢窟の廢止に全力を注ぎ、銀行、大工業、鑛山及び運輸會社を第一に社會化した。けれどもブルジョアの所産にあらざる産業組合は此の第一の禍中に投せらるゝことを免れたのであるが、凡ての資本主義組織が可成り廢止せられたる後に於て、産業組合に對しては之を如何に處置すべきやの問題が起つたのである。勿論産業組合が勞働者及び農民の福祉に役立つことは極めて瞭であるが、該組合は小ブルジョア觀念論者の避難所と目せらるゝに至つた。資本主義並にブルジョアが根絶せられた後に於て、民衆の小ブルジョア精神との闘争が問題となり、而して之は産業組合の破壊とメンシェビキの根絶とに現はれたのである。従つて産業組合は自由組織としては全く消滅するに至つたのであるが、此の變化の道程を述ぶるに先つて、ボルシェヴィキの産業組合廢止の理論上の根據を窺ふであらう。

共產主義の理論家たるメステリヤコフの謂ふ所によれば、産業組合なるものは資本主義搾取の必然的隨伴物であつて、此の搾取に對する闘争手段である。従つて該組合は資本主義制度の所産である。貨幣が廢止せられ之に對する要求が消滅する所の社會主義經濟の下に於ては、信用組合は何のために必要であるか。總ての住宅が社會の所有に移るならば、住宅組合は何のために必要であるか。總生産物が全社會の手中に歸する場合に於ては、購買及び販賣組合は如何なる必要があるか。消費組合に就ても同様であつて、毫も其の必要が認められなくなるのである。蓋し必要なる生産物は分配を司る所の官廳に依て同一條件の下に分配せられるからである。斯くの如く

にして産業組合が組合員に毫も利益を與へなくなるならば何人も之に加入せないであらう。従つて資本主義搾取が終末を告ぐるならば、總ての産業組合は消滅せなければならぬことゝなるであらう。

將來の人類社會は巨大なる消費組合——而して此の組合は同時に總ての必需品を組合員のために生産する所の生産組合である——たるに至るべしとのカウツキーの主張に對して、メスチエリヤコフは社會主義組織の下に於ける生産及び分配は、産業組合の根底に於てではなく、寧ろ社會官廳として組織せらるゝ所のものに依て行はるゝと云つてゐる。即ち社會の各員が之に加入するか否かは、各自の自由意思に掛る所ではない。自由意思的加入の要素——從來の産業組合の特徴——は消滅し、社會の全員は勞働に従事せなければならぬのであつて、彼等は其の必要とする所の生産物を社會から獲得するものである。露西亞の共產主義の立場を正確に表現せる此の論者は、自治に對しても亦反對してゐる。社會主義制度の下に於て自治が存するや否やは全く重要でないとい彼は考ふるのであつて、社會主義組織の下に於ては自治なる語は全く死滅せるものと考ふべきであると云つてゐる。

斯くの如く彼は社會主義制度の下に於ては産業組合なるものは資本主義時代に發生せる他の總ての組織と同様に死滅せざるを得ざる事を確信するに拘らず、一國が無産者の獨裁に依て統制せらるゝ過渡期に於ては、産業組合並に其他の組織なるものは、資本主義に對する不斷の闘争に役立つ限度に於てのみ、尙ほ存続の可能性を有することを承認してゐる。此の目的を達する爲めに

は總ての勞働者は産業組合の組合員とならなければならぬ。政權を獲得せる無產者は彼等の全員に該組合に加入する義務を負はしむるやう努力せざるを得ざるは明白であるが、併し之に由て産業組合の第一の特徴たる自由意思的加入は失はるゝのである。而して無產者獨裁による鬭爭手段としての産業組合の利用は、先づ第一に之を缺陷なき分配機關として組織することである。該組合は從來の活動時代に於ては、充分なる數の分配所と良く訓練せられ且つ經驗を有する役員とを包擁する適當なる技術的機關であつたから、右の利用は充分なる可能性を有するものである。唯從來の組織の缺陷を排除すべきである。此の分配機能を開滑に遂行するためには、從來の組合間に於ける競争を排除し、一村落内に於ては唯一箇の組合を許すがより適當たるであらう。斯く鬭爭手段となれる組合が従前の如く中立たるを得ず、何れの黨派にも屬せざるを得ざるは自明の理である。該組合は無產者の他の總ての組織と同様に、階級鬭爭に参加せざるを得ないのであつて、斯る事情の下に於てのみ産業組合は無產者の正當なる鬭爭機關となるであらう。此の場合斯る機關をして其の最高機能を發揮せしめんことを要求する所の政權を獲得せる無產者が此の機關の經濟狀態に對して無關心なるを得ざるは自然の理にして、補助金又は私的商人に屬する生産物の交付に依て之を援助すべきである。加之産業組合は斯くの如くにして他の性質——即ち獨立性——を失はざるを得ることとなる。此の獨立性なるものは、産業組合が有產者階級の政權に服する危險に曝さるゝ限りに於てのみ有用なるものである。併し勞働者の組合は彼等の政府——無產階級の政府——へ隷屬することを毫も恐るゝ所ではないとせられてゐる。<sup>25)</sup>

要之社會革命及び無產者の獨裁期間に於ては、産業組合なるものは其の本質が根本的に變化せざるを得ないのである。從來産業組合は自由意思的に加入せる組合員にのみ利用せられたる所なるが、今や總ての人民によつて利用せられなければならぬ。従前に於ては産業組合への加入及び脱退は各人の自由裁量に委せられてあつたが、今や加入は強制的のものとなり、從來其の獨立性を確保せる産業組合は、今や無產者の政權に自由意思的に服従せなければならぬ。且つ從來の組合は何れの黨派にも屬せず、其の理想とする所は政治的局外中立であつたが、今や無產者の階級闘争に參加せざるを得ざるに至るものである。

右に述べたる所は無產者獨裁期に於ける産業組合の任務に關するメスチエリヤコフの見解であるが、彼の主張は大體に於てボルシェビキに依て採用せられたのである。戦時共產主義時代に於て右に述べたる主張が如何に實現せられたるか、又其の結果は如何であつたかを今少しく具體的に考究するであらう。

(1)消費組合に對するボルシェヴィキの政策。世界戦争及び之に引續ける革命動亂が齎したる食糧の危機は、全配給機關の破壊によつて一層激しからしめられた。勞農政府は食糧配給機關を設立する目的を以て一九一八年の初めに消費コンミュニンの計畫を完成した。而して此のコンミュニンは全人民を包括する所の唯一の分配機關であり、又同時に其產物の交易をも行ふものであつて、食糧委員會が作成せる計畫に従つて行動すべきものであつた。けれども從來の消費組合の完全なる廢止を意味する此の計畫は、一般の産業組合、就中勞働者の消費組合によつて激しく反對

せられた。此のために勞農政府は一九一八年四月十日の消費組合に關する布告に凝結するに至れる妥協をなすを餘儀なくせしめられた。レーニンは此の布告を以て、ブルジョアの産業組合並にこの立場を棄て得ざる一部勞働者の産業組合との妥協であると云つてゐる。即ち若しも無產者がソビエツトを通じて活動し、國民的基準の上に統制を確立することに成功するならば、斯る妥協の必要は毫も存せないのである。ソビエツトの食糧局及び其の供給機關に依て、無產者によつて管理せらるゝ所の一の組合に人々を結合するであらう。而してブルジョアからの援助を要せず、又勞働者の組合をしてブルジョア組合と提携する（後者を服従せしめ兩者を打つて一九とすることなく）ことを餘儀なくせしむる所のブルジョアとの妥協を要しないのである。<sup>26)</sup>レーニンは此の妥協を以て勞農政府の弱點を示すものと解してゐる。此の消費組合に關する布告に據て、該組合は其の活動の區域内に於て總ての人々によつて利用せらるべきこととなり、貧民をして之に加せしむるが爲めに、組合員の出資額は五十コベツクを越え得ざる旨が規定せられた。而して各村落到於て一般市民の消費組合と勞働者の消費組合との兩者が夫々一箇づゝ認めらるゝこととなつた。又此等の組合の管理部には特殊委員を任命することに依て、ソビエツト行政機關中に引入るゝこととなつた。<sup>27)</sup>

更に一九一八年八月八日の布告に據て、消費組合に農産物と都市工業品との交易を仲介する所の任務が課せられた。併しフクナーの言ふ所によれば此の布告は實際に國民經濟上重要な方策とはなり得なかつたのである。それは(1)食糧の豊富なる地方(シベリア、ウクライナ等)が當時ソ

26) Lenin and Tratsky, The proletarian Revolution in Russia. p. 386.

27) Fuckner, a. a. O. S. 102-105.

ビエットの權力外にありし事、(2)此の交易を管理するソビエットの最高機關並に消費組合が斯る任務を果たすに不充分であつた事、(3)農村が必要とする工業品を充分に供給し得ざりし事、(4)農民から餘剰食料品を強制的に徴收することが充分なる成績を挙げ得なかつた等の理由に基くのである。<sup>28)</sup>更にボルシエヴィキは私的商業を廢止する目的を以て一九一八年十一月二十一日に生産物配給に關する布告を發した。依之ソビエット地方食糧局及び消費組合が從來の私的商業に代て財貨交易の機能を行ふことゝなつた。<sup>29)</sup>

斯くの如くにしてボルシエヴィキは一九一七年以來漸次從來の消費組合を國家機關として利用し來たりたるが、一九一九年五月二十日の布告を以て愈々從來の消費組合を純然たる國家機關に變更し、典型的なる官僚主義的機關として利用することゝなつた。即ち凡ての都市及び農村に於ては從來の消費組合は、唯一の配給機關たる消費コンミュンに併合せらるゝことゝなつた。而して此のコンミュンは、地域の廣狹如何に拘らず、一都市又は一村落内に於ては唯一箇より設立するを許されざることゝなつた。總ての人民は居住地のコンミュンの組合員となる義務を負ふものである。また各コンミュンの幹部としては少なくとも三人の理事と監査會とが、ソビエット憲法に據て選舉權を與へられたる全人民によつて選舉せらるゝことゝなつた。一州内の總ての消費コンミュンは州聯合會(Grubsojus)によつて統轄せられ、更に之は全露中央聯合會(Zentralsjus)によつて統率せらるゝことゝなつた。かくて地方食糧局は、斯くの如くにして組織せられたる消費コンミュンに、食糧品及び其他必需品の全配給事務を委任することゝなり、從來ソビ

28) Fuckner, a. a. O. S. 118.

29) Fuckner, a. a. O. S. 120.

エツト及び消費組合に屬せる店舗、倉庫並に生産企業は例外なくコンミューンに移されることゝなつた。<sup>30)</sup>斯くの如くにして一都市又は一村落到ては一箇の消費コンミューンが設けらるゝこととなり、一九一八年四月に認められたる勞働者の消費組合及び一般市民の消費組合は廢止せられ、全人民は總て消費コンミューンに加入する義務を負ふことゝなり、産業組合の加入及び脱退の自由は全然消滅し、強制的觀念が之に代るに至つた。併し斯るコンミューンは當時の物資缺乏と交通機關の不完備とによつて人民に必要な貨物を充分に配給するを得ず、加ふるに大戰以來嫌惡せられたる食料配給の切符制度が一般に行はるゝことゝなり、ために消費コンミューンは一般不平の標となつた。されば全露中央執行委員會は一九一九年七月三日の決議に據て消費コンミューンの名稱を廢して舊來の消費組合の名稱を用ゐることゝなつた。

(ロ) 其の他の産業組合に對するボルシエヴィキの政策。消費組合は斯くの如くにして全く官僚主義機關となりたるが、其の他の産業組合も亦本來の性質を失ひ、ソビエツトの國家機關に統轄せらるゝに至つた。既に一九一八年十二月十八日の布告を以て産業組合の中央金庫たる國民銀行の國有化を斷行せるが、一九二〇年一月二十七日の布告に依て一舉して信用組合及び農業組合を廢止するに至つた。即ち信用組合並に之が郡及び州聯合會は、同一場所に存在する消費組合及び其の聯合會に併合せらるゝことゝなり、前者に屬する債權、債務、技術的設備及び事務員は後者に歸屬することゝなつた。而して信用組合が生産物の販賣購買及び仲介に關して行ひたる業務にして、變化せる露西亞の政治的及び社會的關係の下に於て其の重要性を失はざる限り、消費組合及

30) Fuckner, a. a. O. S. 124-127.  
Blanc, p. 194-195.

ひ其の聯合會に於て之を繼續することゝした。農業組合及び其他の産業組合の中央聯合會も全露消費組合中央聯合會に併合せらるゝことゝなつたのである。<sup>31)</sup>

更に一九二〇年一月二十七日の布告に據て産業組合の州及び全國會議も解散せられた。斯くて從來の産業組合は總て其の獨立性を失ふことゝなつたのである。最後にボルシエヴィキの農業組合廢止に對する理論上の根據を窺ふに、彼等の主張する所に依れば、本來此等の農業組合は仲介團體であつて、生産は依然として個々の農業者に委せられ、組合は彼等の生産物を總括することを任務としてゐたに過ぎない。斯る生産物の仲介業務によつて農業組合の存在は正當付けられ、此の仲介業務こそ組合を繁榮せしむる基礎であつた。けれども國家が農産物の獨占を宣言し、農産物及び農業機械の仲介を自ら引受けて行ふ場合に於ては、農業組合は其の活動の基礎を失ふものである。ミルユーチンは此の點に關して(1)農業組合は農業勞働及び一般生産行程と直接關係する所は極めて些少であり、(2)該組合は個々の農民團體の機關であつて、從つて其の利益は國民經濟全般の利益と常に矛盾する所であり、(3)加ふるに該組合の仲介活動が國家機關に移り、(4)其の啓蒙活動はソビエツト政府の廣汎なる教育機關に移る場合に於ては其の存在の理由を失ふものであると述べてゐる。<sup>32)</sup>

斯くの如くにして一九二〇年末の露西亞に於ては、從來の活氣横溢せる、將來に對する發展力を有し、大いなる經濟的任務を解決するに適し、人々に好愛せられたる自由なる産業組合は、單一的にして微弱なる純官僚的の組合機關に變化するに至つた。而して新に發生せる組合は帝政時

31) Fuckner, a. a. O. S. 148.

32) Miljutin. Sozialismus und Landwirtschaft. 1920 S. 50.



代の官僚主義の最惡の特徴を示し、總ての精神的及び道德的の力を缺いてゐた。該組合は人民の最も必要な貨物——然かも甚だしく制限せられたる量に於て——以外に充分なる貨物を供給するを得なかつた。民主的なる選擇と自決とは全く排除せられ、産業組合の活動は組合の中央聯合會から發せらるゝ命令に基いて行はるゝに至つた。而して任命せられたる組合の理事は最劣等の官吏であつて、彼等は舊來の弊風を脱するを得ず、又新なる見解に就ても毫も理解しやうと努めなかつた。就中彼等は組合員の意見に關しては極めて冷淡であり、寧ろ彼等は自己が隸屬する所の上司に阿諛することのみに努めた。下級事務員の狀態は従前に比して毫も改善せられず、彼等は刑罰の威嚇によつて勞働に服する有様であつた。露西亞産業組合の發展に於て賞讃の標であつた所の組合所屬の工場及び生産經營は、概ね舊來の組合機關から分離せられて、國民經濟會議又は農業委員會等の國家機關に移さるゝに至り、此等工場の煙突からは煙が昇らず、工場は死せるが如き寂莫さであつた。又組合の文化的施設も官廳に移されて終つた。けれども一般人民の念頭から舊來の信用竝に消費組合に關する追憶が尙ほ永く消え失せないことは明白であつて、此の事は特に農村住民に就て云はれ得るのである。保守主義的なる農民は一度確立せる見解は容易に之を變ぜないであらう。彼等は本來の利益が存する場合に於ても屢々之を理解せざる所であるが、併し一度獲得せる信念は甚だしく頑強に之を固守するものであつて、世界を動搖せしむる所の災害と雖も、寸毫たりとも彼等の信念を奪取し得ないのである。而して農民は彼等の利益が舊來の産業組合の存在と不可分離に結合するものと考ふるのである。而して斯る農民は露西亞住民の大

半を占めてゐる。従つて吾人は之に由て既に露西亞の産業組合の將來を占ひ得るであらう。

## 第五 新經濟政策と産業組合

ボルシエヴィキは所謂戰時共產主義時代に於ては、従前の資本主義露西亞を共產主義國家に變化せしむるに必要な幾多の布告を發したのであつて、産業組合も亦他のソビエツト機關と調和するやうに變更せしめられた。當時ボルシエヴィキが共產制度を實施するに際しては少なくとも二つの希望を有してゐた。即ち第一に彼等は近き將來に於てボルシエヴィキ革命が西歐諸國にも勃發し、此等のボルシエヴィキ化したる諸國は露西亞を援助するに至るであらうと信じ、第二に露西亞人口の約八割五分を占むる所の農民から積極的援助を受け得ると確信したのであつた。従つて國家を社會主義化し共產主義を確立するに際しては、ボルシエヴィキは戰線に於けると同様經濟的改造に於ても勝利を得るであらうと考へたのである。

當時露西亞に採用せられ、産業組合の國有化を實現せる共產國家は、穀物の強制徴收に其の根據を置いてゐたのである。露西亞人口の大半を占むる農民は小農地保有者であるこの事實に基いて、ソビエツト政府は農業コンミューンを設立し、穀物徴收を行ふ計畫を採用することを餘儀なくせしめられた。同時に供給、運輸及び配給機關を國有化し、貨幣の使用を廢し、社會萬般の組織に對して國家統制を支持することによつて、共產主義制度を確立した。併し二箇年足らずして、彼等は其の失敗を認めざるを得ざるに至つた。彼等の第一の希望は全く水泡に歸し、又農民

の支持をも得る事が出来なかつた。穀物徴収は、之が徴収の任に當たる官吏の側に於ても又農民の側に於ても、幾多の弊害を齎した。就中農民は餘剰生産物を悉く國家に徴収せらるゝ結果、農業生産に對する興味を失ひ、穀物生産高は著しく減少した。加之當時の凶作は全露西亞を饑餓状態に瀕せしむるに至つた。斯くてしてボルシエヴィキも彼等の失敗を認めざるを得ざるに至つた。此の點に關してレーニンは言ふ、吾々の事業の最後のものであり、最も重要にして最も困難であり、且つ最も不完全なる部分は、經濟的改造即ち破壊したる封建制度及び半ば破壊したる資本主義制度の代りに、新なる社會主義制度に對する經濟的基礎を確立することである。此の最も重要にして最も困難なる事業に於て、吾々は最も大なる失敗と誤謬とを犯したのである。……今や新經濟政策に依て多數の誤謬を訂正しつゝある。吾人は斯る誤謬なくして、小農民の國家に於て社會主義制度の建設を如何に繼續すべきかを學びつゝあるのである。<sup>34)</sup>

從來のボルシエヴィキの多數の事業を廢止し、産業組合を從前の繁榮に復活せしめたる新經濟政策は先づ第一に從來の穀物徴収に代ふるに現物税を以てすることに存してゐる。農民には其の生産物を市場で賣却し、利潤を確保する權利が認められたのであつて、依之農民は生産を増加する刺激を與へられた。レーニンは之を辯護して云ふ、現物税を以て穀物徴収に代ふる問題は就中一の政治問題である。蓋し此の問題の眞髓は農民に對する勞働者の關係だからである。人民の絕大多數が小農民及び小生産から成立する處に於ては、社會革命なるものは疑もなく、賃銀勞働者が工業及び農業に於て絕大多數を占むる諸國に於て全然不必要なるべき特殊の過渡的方策を規定

34) Lenin, "Achievements and Promise," Petrograd Pravda, Oct. 20. 1921.

するによつてのみ達せらるゝであらう。露西亞に於ては工業労働者は少數であつて、小農民が多數である。だから吾々は農民との理解のみが社會革命を救ひ得ることを知つてゐる。農民が吾々によつて實現せられたる形式と關係とに不満であり、彼等が此の形式を欲せず、從て之を變化せざるを得ざる事を公言せなければならぬと<sup>95)</sup>斯くボルシエビキは新經濟政策を採用する事によつて農民に生産及び交易のより大いなる自由を與へたのであるが、同時に出來得る限り此の交易を集中せしめんことを熱望した。此の目的を達するためソビエツトは地方的交易を産業組合の手中に委ねることゝした。從つて産業組合には舊來の若干の特權が與へらるゝことゝなり、各種の組合が再設せらるゝに至つた。此の組合の復活を認めたる第一の決議は次の如くである。即ち産業組合に對する吾々の關係に關する共產黨第九回大會の決議は、今日現物税によつて代へられたる穀物徴收の原則に基いてゐるとの事實に鑑み、共產黨第十回大會は此の決議を變更することを決定する。從つて大會は露西亞共產黨の計畫と符合し、且つ現物税を根據として産業組合の組織及び活動力を改善し發展せしむるための諸條件を作成するために、中央委員會を任命する。此の第十回大會の決議に基き政府は産業組合の大いなる活動範圍を保證し、同時に農場及び工場に於ける生産の増加を齎すため各種の方策を講ずるに至つた。<sup>96)</sup>

(一)消費組合 新經濟政策の採用後先づ一九二一年四月七日の布告に據て、消費組合に對して或る程度の改造が行はるゝに至つた。併し此の布告に據るも、組合に對する國家の強制は尙ほ殘存する所であつて、一都市又は一村落到於ては唯一箇の消費組合が認めらるゝに過ぎずして、ソビエ

95) Lenin, "The Tax in Kind," Soviet Russia, May 21, 1921. p. 503-6.

96) Blanc, Co-operative Movement in Russia. p. 219-222.

ツト共和國の全人民は其の居住地の消費組合(Pro.)に加入する義務を有するものである。組合聯合會に關する方式も同様であつて、州聯合會(Gutsosjuz)及び全國中央聯合會(Zentrosjuz)が依然として存續してゐる。而して消費組合の任務は従前の如く、國家、社會化せられたる工場又は經營によつて調達せられたる食料品並に外國から輸入せられたる貨物を消費者に配給するにある。而してこの配給を行ふに就て組合は依然として食料委員會の監督に服するものである。けれども此の布告に據つて本來の消費組合の活動が認めらるゝことゝなつた。即ち該組合には農生産の餘剩並に家内工業及び手工業の製品を購入し、之を組合員に販賣する權利が認められ、又生産物を加工するため各種の企業を設立することが許さるゝことゝなつた。而して組合の資金は入會金及び組合員の出資より成立することゝなつた。更に組合の物質的基礎を鞏固にするために、組合が戰時共產主義時代に國家機關として所有せし商品、生産物及び其他の財貨を組合の財産とした。上述の如く全人民は消費組合に加入する義務を有するが、併し一消費組合の地域内に於て、より小地域の人々又は同一職業若しくは職務に屬する人々の自由組合が認められ、之に對する加入及び脱退は各人の自由意思に委ねらるゝことゝなつた。<sup>c37)</sup>

斯くの如くにして消費組合の自由活動は漸次恢復せられたるが、更に一九二四年五月二〇日の法律に據て一層擴張せらるゝことゝなつた。即ちソビエツト共和國の憲法に従つて選舉權を與へられたる總ての人民は消費組合を設立する權利を認められ、消費組合への加入及び脱退は全く自由となり、組合員の脱退に際しては其の出資額及び配分せらるべき組合の利得金が返還せらるゝ、

37) Fuckner, a. a. O. S. 172-175. P. Sewruk, Das Genossenschaftswesen in der Union der S. S. R. 1925. S. 14. 15.

ことゝなつた。組合は組合員の消費及び經濟需要に應ずることを本來の目的とすることゝなり、組合員以外の人々への供給は組合員總會の許可を要し、且つ此の總會に於て決定せられたる規準に基くことゝなつた。組合の資本は設立の際に國家より交付せられたる財産、組合員の入會金及び其の出資、組合の純利潤の積立金から成立する。又貧民をして組合に参加する事を容易ならしむるため、組合員の出資の最高限度は五金留とし、且つ之が年賦支拂を許した。各消費組合が聯合會に併合するか否かも全く自由となつた。而して消費組合には次の如き業務を行ふ權利が認められた。<sup>(a)</sup>農業、家内工業及び製造工場の生産物の購買及び保管、<sup>(b)</sup>國立工場及び産業組合所屬工場、<sup>(c)</sup>工業品の手工業的及び工場的生産經營、<sup>(d)</sup>組合員の勞働生産物を販賣するためにする商業及び委託業務、組合員の經營に必要な器具、機械及び原料の供給、<sup>(e)</sup>組合員の勞働生産物を保管する倉庫の設立、各種の生産用具を貸與する機關の設置、<sup>(f)</sup>組合員に有利なる條件を以て資金を貸與する事を任務とする信用部の設立、<sup>(g)</sup>産業組合の概念及び任務を特に農民間に理解せしむるための啓蒙活動である。斯くの如く消費組合は漸次自由活動を擴張すると共に著しく其の數の増加を來たした。今戦前と比較すれば左の如くである。<sup>(38)</sup>

消費組合數	一九一四年 一月一日	一九二三年 一月一日	一九二四年 一月一日	一九二四年 四月一日
七七四二	一五〇七九	一九一一〇	二〇一二〇	二〇〇〇九

販賣所數	—	一九六〇〇	二九六八九	二八〇六三	二九一六四
組合員數	二〇〇〇〇〇	—	四九三六二五五	六九〇七四七六	七二二七六一八

又全露消費組合聯合會も其の活動を恢復し、主として外國との取引に従事し、必需品の輸入に努むることゝなつた。

(二) 農業組合 新經濟政策に據て自由交易が復活せられ、現物税が採用せられたるが爲めに、農業生産の多少の増加を促したるが、併し食料の供給を一層潤澤ならしむるが爲めには、更に、以上の方策を必要とした。一九二〇年末の農業狀態は實際に危險なるものであつて、農業委員會(Narkomzen)は次の如き報告をしてゐる。即ち、ソビエツト露西亞の三十二州に於ては、農民は農地の九六・八%を所有してゐる。斯る事情の下に於て食料生産を増加するために我々の努力を集中すべき目標が農民經營たることは、彼等が農産物の主要生産者たるが故に、當然の所である。若しもソビエツト政府が近き將來に於て穀物の代りに雜草を蒐集することを欲せないならば、農民經營を適當に組織するために大膽なる方策を採用せなければならぬ。……而して國立農業經營が成功することを期待するは全く無用である<sup>(39)</sup>。斯る事實より考ふれば農業生産を迅速に増加するためには農業組合の活動に依て小農家を援助することの必要なるは言を俟たざる所である。さればソビエツト政府は一九二一年八月一六日の布告に據て農業組合を復活せしめた。更に一九二四年八月二二日の布告に據て農業組合の獨立と其の活動範圍とが一層擴張さるゝことゝなつた。即ち農業又は之と關聯する職業に従事し、且つ選舉權を有する總ての人民には農業組合を

39) Blanc, p. 241.

設立する權利が與へられる。而して此の組合の任務とする所は、農業の共同經營、必要なる經營手段の供給、生産物の加工及び販賣、土地改良、機械の購入及び利用等である。又組合は組合員の貯金を預り、貸付を行ひ、農業知識を普及する啓蒙的活動をも行ふものである。斯くして農業組合は其の活動範圍を擴張するに伴ふて其の數を増し、一九二四年 〇月一日には三四五〇〇に上り、組合員は二七〇萬に達した。同時に全露農業組合中央聯合會 (Sel'skosojsus)、全露亞麻栽培組合聯合會 (Linozent)、全露馬鈴薯組合聯合會 (Maslozent)、果實、野菜及び葡萄栽培組合聯合會 (Plodovinsojus) の復活を見るに至つた。

(三) 手工業組合 新經濟政策採用後、ソビエツト政府は世界戰爭と革命とによつて惹起せられたる商品缺乏を救ふため手工業の發達を圖らざるを得ざるに至つた。蓋し當時大工業は最大の危機に遭遇し、其の一般生産力が殆んど滅亡的衰境を呈するに當り、手工業並に小工業の多くは其の地位を保ち、當時漸く甦生せる都市農村間に於ける物資交易上最も重要な役割を演ずるに至れるからである。レーニンも手工業の重要なことを認め「現物税に就て」なる小冊子に於て次の如く云つてゐる。即ち手工業は機械を要することなく、之がため國家は原料、燃料、食糧を貯藏する必要なく、また其の大貯藏を必要とせざるのみならず、直接に農村經濟を援助し生産力を増進せしむるものである。故に手工業を復興するが爲めに或る程度まで之を奨励援助せなければならぬ。尙ほミュルテインは一九二一年五月の第九回全露國民經濟大會に於ける報告中に於て、之と同一趣旨を力説し、現在に於ては手工業及び小工業は、農村經濟の救援上特に重要な意義を有してゐる。故に之を發達せしむるが爲め最も廣汎なる便宜と諸般の助力とを與へねばならぬと。<sup>40)</sup>

40) Sewruk, a. a. O. S. 42.

41) 南鐵洲鐵道株式會社庶務部調查課編、勞農總圖研究叢書、第二編 三六三頁



斯る見解に基いて一九二一年七月七日に手工業組合に關する布告を見るに至つた。之に據て同  
 一種類の貨物の生産の爲めに、家内工業及び其他の小工業に従事する者は、共同生産、組合員の  
 勞働の組織化、必要なる生産原料、器具及び設備資本の調達、組合員の勞働生産物の加工及び販  
 賣、生産量の増進及び品質改善等の目的のために組合を設立する權利が認められる。組合の設立  
 には少なくとも五人の組合員を必要とし、組合及び各組合員の勞働は組合員自身によつて行はる  
 を原則とし、雇傭勞働は組合員自身によつて行はれざる各種の補助勞働並に特殊の智識を要す  
 る勞働に對して許さるゝが、併し雇傭勞働者數は全組合員の二割を越ゆるを得ないのである。手工  
 業組合は各州に聯合會を有し、更に中央機關として全露手工業組合中央聯合會 (Wsekopromsogus)  
 が存する。一九二四年一月には全國に六千の組合があつた。<sup>42)</sup>

(四)信用組合 新經濟政策の採用以來ソビエツト政府は農業生産力の復活に全力を注ぐに至つ  
 た。併し世界戦争及び之に引續ける革命動亂は農業資本の甚だしき破壊を齎したるが故に農民の  
 經營を回復するためには、就中資金を必要とした。併し農業信用の發達は農民の産業組合的自治  
 活動に依てのみ可能であるを考へられたるが故に、ソビエツト政府は一九二二年一月二十四日の布  
 告を以て、信用組合の復活を認むるに至つた。而して此の組合は組合員の經濟的要求を充たすた  
 めに有利なる條件を以て貸付 行ひ、組合員の資金を蒐集し、農業に必要な資本財を調達し、  
 組合員の勞働生産物の販賣を仲介する等の任務を有するものである。而して信用組合を設立する  
 には少なくとも五十人の組合員を必要とすることとなり、組合への加入は全く自由となり、組合の  
 資本は組合員の入會金及び出資、借入金及び國家の貸付金よりなる。斯くの如くにして信用組合

は漸次其の活動を復活せるが、一九二四年八月には全國に九六三七の組合の發生を見るに至つた。<sup>43)</sup>斯くの如くにして各種の産業組合が漸次發展し來たりたるが、政府は其の中央金庫として全露産業組合銀行 (Vseskobank) を設立した。最初此の銀行は一九二二年二年に消費組合銀行として組織せられたるが、一九二三年一月に全産業組合銀行となつた。此の銀行は株式組織であるが、定款に依て産業組合のみが株主たり得るのであつて、株主總會に於て株主たる各組合は如何に多くの株數を有するとも、總投票數の五%以上を有し得ないのである。一九二四年七月一日の調査によれば、此の銀行は各種組合に左の金額の資金貸付を行ふてゐた。<sup>44)</sup>

消費組合	二三一、一六四、〇〇〇	金貨	五七・七%
農業組合	九三〇、三七〇〇		二三・二
手工業組合	三六七、三七〇〇		九・二
混合組合	三三九、一三〇〇		八・五
其他	五七三、九〇〇		一・四
計	四〇〇、五九〇〇〇		一〇〇・〇

## 第六 結 言

要之露西亞の産業組合は世界戦争、ボルシェヴィキ革命及び共產主義的政治と云ふが如き幾多の變遷を経て、今日に於ては一の重要な經濟的要素となりつゝあるものである。革命前に於ける産業組合は獨立の組合であつて、其の計畫は純然たる商業上の基礎の上に築かれたのであるが、共產黨政府は該組合を以て小ブルジョア觀念論者の避難所となし、之が獨立性を奪ひ之を極端に

43) Sewruk, a. a. O. S. 52-53.

44) Sewruk, a. a. O. S. 63.

強制して國家の官僚的機關に變革してしまつたのである。然るにボルシェヴィキの急激なる共產主義政策は全然失敗に終り、經濟上の危機拾收すべからざるに至り、新經濟政策の採用によつて局面展開を行はざるを得ざるに及んで、産業組合の復活を認むるに至つたのである。哲學的辯證論は如何であらうとも、事實上時局は此の辯證的政策を必要としたのである。ブランクは這般の事情を評して、革命前に於ける産業組合は獨立の組合であつたが、共產黨政府は之を他の極端に強制したのである。然るに其の國にとつても又此等の組合にとつても共に有害なる兩極端から今や振子は多幸なる中心點に向つて揺り動いてゐると言つてゐる。<sup>45)</sup>先きには小ブルジョアの避難所として廢止せられたる産業組合は再び其の獨立性を認められざるを得ざるに至つたのである。併しレーニンも「現物税に就て」なる論說中に於て云ふ如く、小規模商品生産者の産業組合は必然に小ブルジョアの資本主義的關係を生み、其の發達を促し、小資本家を優勢にし、彼等に最大の利益を與へるのである。露西亞に於ける現在の情勢の下では、商業の自由と産業組合の權利とを許すことは資本主義の自由と權利とを許すことを意味してゐるのである。斯くの如くレーニンは一方に於て産業組合の復活を以て際に資本主義への退却を意味してゐるのであると解してゐるが、併し他方彼は産業組合によつて手工業者及び農民を團結せしめ以て社會主義への推移を容易ならしむる手段であると解してゐる。殊に露西亞の人口の約八割五分を占むる所の農民をして産業組合に加入せしむることによつて、彼等をして共同經營、共同購買及び共同販賣に馴れしめ、以て個人主義的經濟組織から眞の共產主義組織に導く所の最善の訓練所と解するものである。即ち産業組合は幾百萬の民衆の、やがて例外なく全民衆の結合と組織とを容易にする。そして又國家資

45) Blanc, p. 263.

本主義から社會主義への推移といふ見地から極めて重要な利益であると彼は論じてゐる。斯くの如くレーニン一派の共產黨は産業組合を以て眞の社會主義實現の手段と解するものである。されば一九二一年七月十日の第三インタナショナル第二十一回會議に於て、古き産業組合は改革主義の途を追求して、革命的闘争を回避した。今尚ほブルジョアから成立する多くの産業組合がある。斯る組合は革命闘争に於てプロレタリアと協力することはないであらう。産業組合に於ける共產黨の任務は、共產主義思想を普及すること、此の運動を革命的階級闘争の一機關に變改し、且つ地方組合を全體としての國民的組織から分離せしめざる事であると決議してゐる。<sup>46)</sup>けれども農民をして斯る意義の産業組合の任務を理解せしめ、該組合を發達せしむるためには就中農民の啓蒙を必要とするものである。レーニンも斯やうに産業組合が完全に發達する條件の一つは農民の間に於ける教育と教養とを大いに發達せしめることであつて、それには完全な教養上の革命を必要とする<sup>47)</sup>と論じてゐる。露西亞の如き小農民が人口の大半を占むる所に於ては彼等を眞の共產主義に馴れしむるには、産業組合が甚だ重要であつて、之によつて彼等の個人主義的思想を共產主義思想に啓蒙するに重大なる機關であるとされてゐる。レーニンは權力が既に勞働者の手に歸する場合に於ては、産業組合の發達は社會主義の發達に均しいと迄極言してゐる。然れども理論は兎角實際と符合し難いものであつて、新經濟政策採用後の産業組合の形態は漸次革命前の組合に接近しつゝある事は之を認めざるを得ないのである。されば斯る産業組合の發展が社會主義經濟の發達に均しいか、それとも又資本主義の發達に均しいかは極めて疑問たらざるを得ないであらう。

46) Theses and Resolutions of the Third World Congress of Communist International, p. 151-152.

47) Lenin, Ueber das Genossenschaftswesen.